

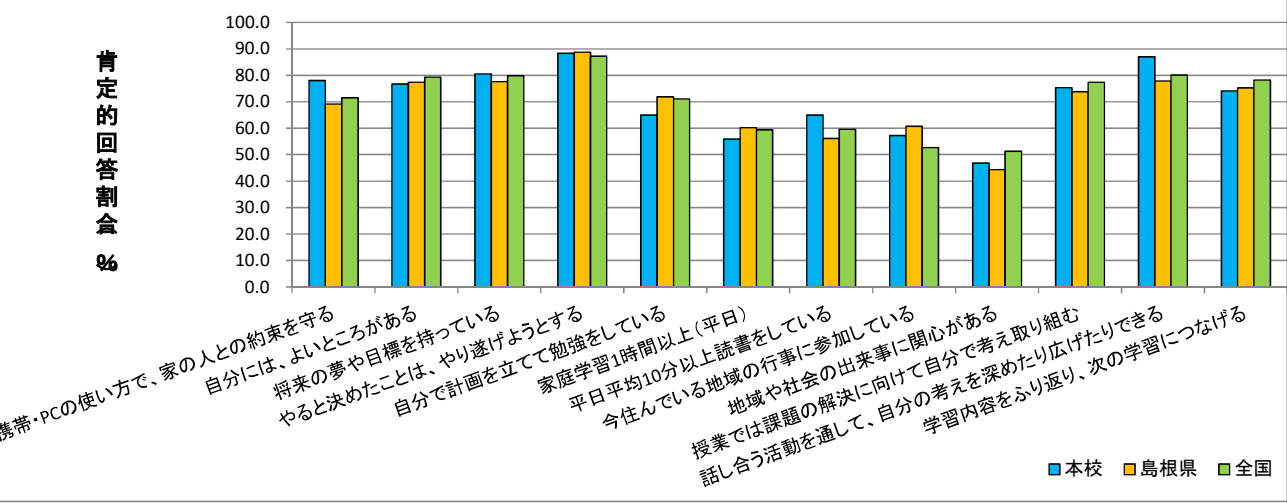
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○平均正答率は全国より「+1.4」である。正答率8割以上の児童も「+2.2」で上回っている。特に「我が国の言語文化」では「+11」「書くこと」では「+7.4」上回っている。 ●問題別正答率では「人物像や物語像を想像する」で「-8.6」「漢字を使って書き直す」で全国を下回った。	・想像した人物像や全体像を意識しながら読み進め、様々な表現が読み手に与える効果について考える。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を、単語のみで練習するのではなく、文章の中で書いたり練習したりすることで、意味を考えながら活用し、文章の中で正しく使うこと
算数	○平均正答率は全国より「+2.8」である。正答率8割以上の児童も「+0.4」で上回っている。特に「データの活用」では「+8.6」であり、他の領域でもすべてで上回っている。 ●問題別正答率でも、どの問題でも全国を上回るか、差がないのだが、しいて言えば「割合を分数で表す」で「-1.5」であった。	・「聞く・話す」等の対話を大切にした学習を継続し、自分の考えをもち、友達の考えと共通点・相違点を明確にさせる取組を進める。 ・タブレットや電子黒板等ICT機器を個人思考や意見交流に活用し、児童が自ら数学的概念を獲得できる指導を進める。
理科	○平均正答率は全国より「+4.7」である。正答率8割以上の児童も「+12.7」で上回っている。特に「エネルギー領域」では「+7.4」であり、他の領域でもすべてで上回っている。 ●問題別正答率でも、全国を上回るか差がないのだが、しいて言えば「解決までの道筋を構築し考えをもつ」で「-0.6」であった。	・課題に対して、どんな実験をすれば解決することができるのか考えるとともに、自分の考えだけではなく「他者の予想」も捉え、それらを基に、筋道を立てて解決の方法を発想する学習活動を取り入れる。

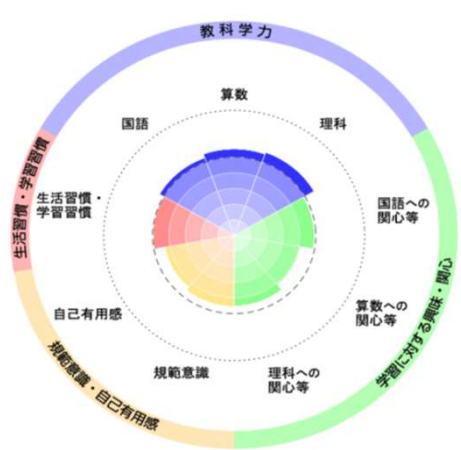
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○肯定的回答割合で高いのは「+8.2」の「国語の授業の内容はよくわかる」であり、全体的には全国とほぼ同率である。 ●地域の行事によく参加しているが、地域や社会のために何をすべきか考える児童の割合は低い。 ●教科に対して、興味関心に関するものの肯定的な回答が低い。	・それぞれの教科のおもしろさや興味関心をもたせる取組を継続するとともに、基礎的な内容がしっかり定着できるように低学年から確実に積み上げていきたい。 ・地域と連携した学習を継続し、系統的に身に付けたい資質・能力を整理し、自分にできること考えたり、行動したりする機会をつくる。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・問題によっては無回答率が高いものもあり、中下位層の基礎学力を引き上げるために、基礎的な力をつける学習について、学習の工夫や家庭での学習の習慣化を進めていきたい。ペアやグループ、ICTの活用も含めた対話的な学習を積極的に取り入れて授業改善を行い、基礎的な学力の定着を図りたい。

・児童にとって必要感や魅力のある課題を準備したり、学習のゴールを明確にするなどして、児童が意欲的に学習に取り組めるように工夫する。

・キャリア教育をベースに、学習と社会的な事象との関連や学習の意味を、自分の将来の夢と重ねて考えさせる。

【受検者数】

72 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。